

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

●上智大学総合人間科学研究科心理学専攻

「心理学研究者の統合的養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

1年目は半年弱の期間だったが、学術講演が2件、海外学会等への大学院生派遣が4件実施され、大学院生たちが世界の心理学者の先端的研究に接し、議論をする機会を得た。2年目は、十分に時間をかけて大学院生の研究プロジェクトを公募し、6件の申請が採択された。大学院生の学会発表は、国外で5件、国内で12件と、大幅に増加した。学術講演会とシンポジウムも2件実施した。3年目は、12件の研究プロジェクトが採択され、前年度から倍増した。学会発表は、国外で3件、国内9件であった。また4件の学術講演等が実施された。年度末には、大学院生による活動成果のポスター発表会と、教員企画のシンポジウムが行われ、3年間のGP活動の総まとめとした。大学院生に対してきわめて強い知的刺激を与えることができた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

情報の公開と公平性の保証にもっとも注意した。具体的には、以下の7つのカテゴリーを大学院生に提示し、透明性の高い申請システムを構築した。

- A: 研究プロジェクト: 教員を代表者として、年間継続して研究を行うための諸費用を一括して申請。
- B: 国際学会発表: 国外の学会での発表をするための、参加費、航空チケット代、宿泊費を申請。
- C: 国内学会発表: 国内の学会での発表をするための、参加費、旅費、宿泊費を個人ベースで申請。
- D: 研修会参加: GPの趣旨に合致した研修会のため、参加費、旅費、宿泊費を個人ベースで申請。
- E: シンポジウム、講演会企画: GPの趣旨に合致したテーマでスピーカーを招聘。
- F: 集中講座の開催: 講師を招聘し、長期休暇等の時期に実施。
- G: その他: 自由な発想で、上記以外の活動を申請。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

GPの支援がなければ不可能だった、さまざまな学会に参加発表することができ、大学院生の意欲は非常に高まり、視野が広がった。また、公募プロジェクト

の応募方法や申請書の書き方、予算の組み方、支出の工夫、報告書の書き方などを、事務方と一体になって指導した結果、意欲の高い大学院生が研究費の申請全般に関して高いスキルを習得できた。